



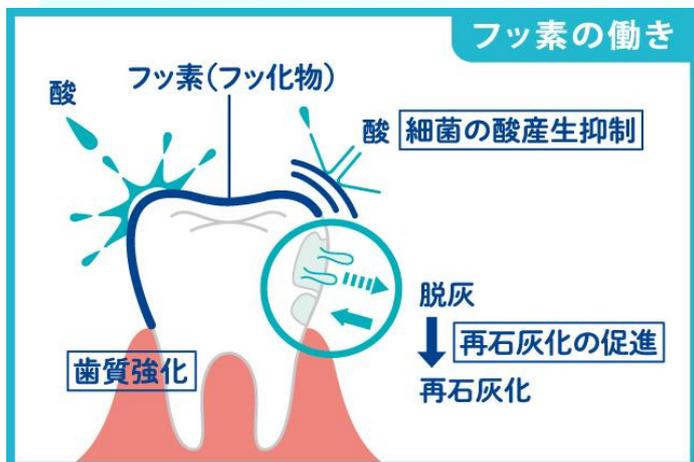
ハッピー通信50号



フッ素はむし歯予防のサポーター！

毎日コツコツが、効果的！

フッ素の働き



●酸の産生を抑制

歯磨きで落としきれなかった歯垢(プラーク)が作るむし歯の原因菌の働きを弱め、歯垢(プラーク)が作る酸の量を抑えます。

●再石灰化の促進

歯から溶け出したカルシウムやリンの再石灰化を促進させます。

●歯質強化

歯の表面を酸にとけにくい性質に修復します。特に乳歯や生えたての歯は軟らかいので、フッ素配合のハミガキ剤を使い、歯質強化に努めましょう。



イベント報告



お盆を過ぎてだんだん過ごしやすくなってきましたね♪

7・8月は七夕企画で、すずき歯科に通う子供たちにお願い事を書いてもらった短冊をたくさん飾りました♪

毎年、鈴木先生が北海道神宮へ奉納しに行っています！みんなの願いはかなったかな？



Trick or treat!



そして、来月10月からは新たにハロウィンイベントがスタートします♪

キッズスペースにはたくさんの仮装グッズと他にも楽しいイベントがあるかも…？

お楽しみに！！

デンタルフラッシュ

導入!!



今年から新しく、

「デンタルフラッシュ」という

アニメーションの媒体が導入されました！！

言葉だけでは伝わりにくかった検査方法や治療内容、予防等をリアルな 3Dアニメーションで見ることができるので、より分かりやすく・安心して治療を受けられるようになりました！！

お父さん・お母さんの

マイナス1歳からはじめるむし歯予防

みなさんはむし歯が“感染菌”ということをご存じでしょうか？
口腔内にあるミュータンス菌など、目に見えない菌の感染経路を完全にシャットアウトするのは難しい…と思われる方も多いと思います。

だったら生まれてくる赤ちゃんに移してしまう前に、
親(周りにいる家族全員)が自分のむし歯菌を“感染してもお口に住みにくい菌”に変えておけば安心！！ではないでしょうか？
それを可能にする存在がキシリトールなのです！！

キシリトールの効果

①砂糖と違い、むし歯菌の原因にならない

むし歯の原因であるミュータンス菌はショ糖を分解して酸を産生しますが、キシリトールは分解しても酸を作り出せません。

②むし歯菌の性質を変える

ミュータンス菌はキシリトールを代謝できないので酸やプラークを作り出せませんが、代謝しようとし続けるので、エネルギーを得る事ができず、ミュータンス菌自体が弱ってきます。

③プラークの性質を変える

ミュータンス菌の活動が弱まることでプラーク量が減少します。
そしてプラーク自体がサラサラになって歯の表面から剥がれやすくなります。

自分のために、大切な人のために。

キシリトールの特徴を活かした

「最小限の努力で最大の効果」が期待できる予防法、それがマイナス1歳からはじめるむし歯予防です

④プラークの中の pH をさげない

通常私たちのお口の中は中性の状態です。pH7.0 付近に保たれていますが、食事を摂取すると pH5.5 以下となり酸性に傾きます。歯の表面のエナメル質は pH5.5 以下となると徐々に成分が溶け出し脱灰を起こします。これがむし歯の始まりです。

キシリトール商品の選び方のポイント

キシリトール 50%以上のものを選ぶ
キシリトールの含有量が多いほどむし歯予防の効果が高いため、含有量が 50%以上含んでいるものがオススメです。すずき歯科では 100%のキシリトールガムも販売していますよ。

キシリトールの効果は1回摂取すれば期待できるというものではなく、継続して摂取することで効果が期待できます。

